

人へ伝

父や恩師から授かった

人か

音楽のバトン

●編曲家
●ha-j (はーじえい) 本名 佐藤肇さん
●父
●母
●騏一郎さん

角館出身の音楽家・ha-j (はーじえい、本名・佐藤肇さん) は、嵐などJポップの楽曲の編曲などをする音楽業界のトップランナーのひとり。平成26年に秋田県で開催される国民文化祭のテーマソングのプロデュース・作編曲を担うなど県内での活動も活発になって、仙北市民にとってはうれしい誇りです。

音楽教師だった父・騏一郎さん、保母だった母・祐子さん、ピアノが上手な姉のいる家庭に育ち、全国レベルのオーケストラ部でトランペットに熱中した中学時代を過ごしました。アマチュアからプロ駆け出しのころは苦しい時代もあったといいます。

編曲家を志した肇さんが周囲から得たものは何だったのか？

肇さんを一流にしたのは音楽性だけでないと感じさせるほどの礼儀のある誠実な人柄は、社会とどう接しているのか？

父・騏一郎さんと肇さんの会話の中から、その魅力をお伝えします。



絵が音楽か 迷いながら進んでいた

肇さん▼「小学校4年生から吹奏楽部に入ってトランペットを始めました。角館中学校に入ってからトランペット。当時から角中のオーケストラ部はハイレベルだったから、必死で練習しました。顧問は父の教え子でもある倉橋先生。大変にお世話になったかたのひとりです。角高に進学してからは部活はやらすロックバンドに熱中。トランペット奏者としては、自分では角中で一応のところまでやった感があったから、次はつくる方をやりたかったんです。それに、女の子にモテたいという下心もありました(笑)」。

騏一郎さん▼「本人は絵画で身を立てたかったようですが、絵描きで食べていくのは大変なことですから勧めませんでした。ただ子どものころから音感が良かったものですから、調律師に向いていると親としては思っていました。音大受験のために高校2年のときから、音楽活動で交流のあった大曲の坂本昌先生にお願ひして指導していただきました」。

肇さん▼「坂本先生との出会いがなければ、今の自分はなかったと思います。音楽の道へ進むことは。坂本先生は『クラシックも楽しくアレンジすればいいじゃない』と言う楽しい方。音に自由を与えることを教わりました。音楽のことだけでなく雑談を交わす時間も多く、その中からたくさんのお話を学んだ気がします」。

仕事では、 折れなければならぬことも多い

肇さん▼「将来の道について、絵描きか音楽か迷っていたとき、大曲の坂本先生のところで『絵と音楽はどっちが好きか』聞かれました。『絵』と答えると『せば、絵は仕事にしないほうがいい』とおっしゃったので2番目に好きな音楽の道を行こうと思いました。そのときはなぜ1番好きなことを仕事にしちやダメなのかわかりませんでした。が、音楽の仕事に就いてみると折れなければいけないことも多く、やつと先生がおっしゃった意味がわかりました」。

音大を退学しようと思ったことも

肇さん▼「尚美学園大学(埼玉県)に進学して作曲を専攻しました。ところが、音楽を志す同期にすごいのがいっぱいいて驚き悩みました。自分は音楽の世界では負ける、これは無理だと思いました。短大をやめて角館に帰って公務員を目指そうと決意。大学の先生にそれを伝えました。『きみの身柄は2年間ご両親から預かっている。だから、きみの意向は認められない』とのことでした(笑) 学生を続行。先生のほうが何枚もうわてでした(笑)」。

ha-jプロフィール

仙北市角館出身。音楽プロデューサーとして、嵐やKAT-TUN、Kinki Kidsなど数々の編曲を手がけ、2010年度にはオリコントータルセールスランキング編曲家部門で1位を獲得。県内の多くの音楽家と交流があり、秋田をテーマにした楽曲も制作している。代表作は、嵐「Troublemaker」「Beautiful days」「果てない空」「ユカイツーカー怪物くん」編曲、KAT-TUN「RESCUE」「Keep the faith」編曲、Kinki Kids「スワンソング」「Harmony of December」編曲、NHKみいつけた!「オフロスキーのちゃっぼんぶし」編曲、ZONE「約束〜August, 10years later〜」作曲編曲、「H・A・N・A・B・I〜君がいた夏〜」「卒業」編曲など多数。ベーシストとしても活動が続けている。

ベーシストを選んだのは？

高校時代、ギターを練習しても思うように上達しなかったんです。毎日8時間弾いていても…。そこでベースを弾いたら最初から割合うまくいった。周囲の反応もオーケーでした。それでベースです。

父・駒一郎さんの音楽

昭和8年生まれ。父の仕事の都合で幼少時代を秋田市で育つ。旧制中学時代に角館へ。



驥一郎さん▼「旧制中学の生徒時代、学校にあつたリードオルガンに興味を持ったのが音楽との出会いであつたと思います。そのうちにオルガンでは物足りなくなつた私は、どうしてもピアノが弾きたくて、当時の角館南高等学校に夜間使用の許可を願ひ出たものです。男子が女学校で夜間ピアノを弾くなど常識にはない時代でしたが、音楽を担当しておられた先生の口添えもあつて認めていただきました。

3年間、冬の夜など、かじかんだ指を息で暖めながら夢中になってピアノに向ったことなど懐かしい思い出です。古き良き時代でしたね。

教員生活のスタートは旧雲沢中学校でした。理数担当で採用になったはずでしたが、ピアノが弾けるということで否応なく音楽も担当させられました。趣味と職業は別物です。当時の生徒に

は気の毒でしたが、私にとつては音楽の授業は苦痛そのものでした。

ところが次の太田中学校ではこともあろうに音楽専科です。思い悩んだ末よしそれならば音楽教師として通用するだけの専門技能を身に付けようと、長期休暇を利用して東京の音楽大学で学びました。

吹奏楽を本格的に指導するようになったのは生保内中学校時代からです。地域の協力をいただいて自分なりに生中の充実した18年間でしたね」。

生保内中学校時代の吹奏楽部といえ
ば全県に名を轟かせた強豪でしたが？

騏一郎さん▼「当時、田沢湖町では
 冬のスキー競技をはじめ四季を通じて
 全国・全県規模の各種スポーツ大会
 やイベントが開催されました。何分、
 地元には高校がありませんので、開・閉
 会式等の式典音楽は中学校が担当いた
 しました。そのような訳で学校規模に
 してはかなり大編成の、しかも優秀な
 楽器を備えた吹奏楽部を擁していた訳
 です。しかも常に式典や皇室・皇族の
 送迎演奏を担うだけの演奏水準を保っ
 ていることが必要とされましたので、
 中学校の部活動にしては相当ハードな
 訓練の積み重ねの毎日でしたが、当時
 の生徒は朝の自主練習までして、よく
 頑張ってくれたものです。」

でも本音を吐けば、授業での合唱指導や全校合唱の指導をしているときがわたしにとっては最も楽しい時間でした」。



仕事も趣味も 極めるのが 佐藤家流？

駒一郎さん▶「教師を定年退職してからは、教員時代のは全て捨てて、新しいことばかりやっています。陶芸、園芸に釣りを、料理、趣味の音楽。楽しいですよ」。



忘れられない言葉
何回か運が来るから
逃さないほうがいい

忘れられない言葉

肇さん▼「高校生のとき角館出身で音楽プロデューサーとして活躍する「菅原弘明さん（仙北市広報平成22年12月16日号で紹介）」がいることを知りました。レコーディング関係の本を見ると菅原さんのことが載っていたり、坂本龍一さんがアカデミー賞を取った

『ラストエンペラー』のクレジットにも菅原さんの名前がありました。これを見て私は勘違いしてしまっただです。音楽家という仕事は身近だ、と(笑)。はやる気持ちを抑えられず早速連絡をしてしまいました。菅原さんが帰省した際に角館の喫茶店にいらしていただいて『私も音楽家になりたいのですかどうしたらなるのですか』と相談をしたんですよ。怖いもの知らずというか、すごいですね、若さって。

菅原さんは丁寧に『何回か運が来るから、逃さないほうがいい』と教えて

- 仙北市主催事業（事業名は仮称）
- 1 民俗芸能の祭典
- 2 秋田の文学・作家を語る
- 3 朗読 貞子
～秋田おばこ物語～
- 4 アートdeまちあるき
- 5 江戸に花開いた角館の文化
- 6 文芸祭（短歌）
- 7 大正琴コンサート
- 8 内陸線アート
- 9 もち米onパレード
- 10おもてなし事業

第29回国民文化祭 あきた2014

平成26年10月4日～11月3日開催予定の「第29回国民文化祭・あきた2014」は、「地域の文化力を高め、文化の力で地域を元気に」を基本理念とし、実現に向けて「つなぎ」・「支え」・「育み」の3つの取り組みを展開していくこととしています。

仙北市実行委員会では、「歴史と文化を継承しているまち仙北市」として、全市体制で取り組むことを確認しました。今後、事業別に企画委員会を開催し、基本的な企画立案を検討し確定していく予定です。

くれました。

実際に22・23歳でチャンスがありました。このときは実力がなくて逃しました。

その後自分がプロとしてやっていけそうになった32歳くらいの時、再び菅原さんに突然メールしてお礼などを伝えました。『あのときの学ランの高校生か?』と覚えていてくれました。

それからお付き合いいただいて、この度は共同で作品をつくる幸運に恵まれています」。

肇さんと菅原さんは、新秋田県立美術館のオープニングセレモニーの楽曲を作曲演奏します。プロジェクト・マッピングというデジタル映像と音楽をミックスしたアート・プロジェクト。初めての共同作品が楽しみです。

秋田幻燈夜

日時 10月17日(水)～20日(土)
夜6時～8時30分
会場 新秋田県立美術館

これからの夢

「旅をしながら絵を描きたいです。今は音楽とそれに付随することで手一杯な毎日を過ごしていますから。心のトリートメントはいい仕事にも結びつくでしょうし。自分で自分を豊かにしたいと思っています」。



プロのすごみ

プロの中で恥もかいて失敗もした人は重みが違います。それに比べると自分はまだまだ、全然です。自分はアマチュアが長かったからもっと早く（プロとして）やればよかった。そう思っています。

